

令和2年度 学校関係者評価書

学校名	北海道 浜頓別 高等学校	校長名	北 村 京 一	実施日	令和3年2月26日
-----	--------------	-----	---------	-----	-----------

1 学校教育目標

1 学力・体力をつくるとともに、情操を培う。 2 開拓者精神を受け継ぎ、創意工夫の実行力を養う。 3 明るく、楽しい社会の形成者としての資質を養う。
--

2 本年度の重点目標

心身ともに健康で、目標達成に向かって主体的・協働的に判断・行動できる生徒を育て、 (1) 学習に取り組む意欲・態度の涵養を図るとともに、社会貢献に資する有益な人材を育て、 (2) 自他を尊重・敬愛する視点を持ち、基本的生活習慣の確率を図り、自己管理能力を育て、 (3) 進路目標を定め、情報収集・活用を通じ、自己実現に向け、粘り強く取り組む姿勢を育て。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

【教育活動】

項 目	今年度の目標	目標達成のための方策と評価の観点	達成状況	評価	自己評価の結果	改善の方策	
【学習指導】 基礎・基本の定着と生徒自ら学ぶ態度及び思考力・判断力・表現力の育成	基礎基本の定着	授業評価を活用し基礎基本の定着や理解の深化が学力向上に結びついているか	2.9	B	○習熟度別授業とICT機器の活用 英語、数学において習熟度別展開授業を実施し、基礎学力の向上に成果を上げている。 授業にICT機器を活用し、生徒の興味関心や理解を促し、学力向上に貢献した。 ○授業見学、授業評価、校内研修の一体化による授業改善 公開授業週間等で教科横断的に授業見学を行い、授業評価とあわせて授業改善につなげる取り組みを行った。 生徒が主体的に学習できる授業について、教員どうしが学びあえる機会を設けることができた。 ○生徒の実情に応じた取り組みの必要性 授業、HR等で家庭学習を促す働きかけを行ってきたものの、実効性に欠けていた。学校全体で仕組み作りができていなかった。	○次年度は教員配置の関係から、習熟度別展開授業を実施することが困難なため、授業、放課後学習、個別指導を組み合わせで多様な学力の生徒に対応する。 確実な学力向上に資するICT機器の活用について、十分考慮したうえで今後も積極的な活用をしたい。 ○授業見学、授業評価をふまえた授業改善を次年度以降も継続して校内研修のテーマとして扱い、PDCAサイクルによる授業改善が実効性のあるものとさせる。 ○各教科・科目の授業やHR単位だけでなく、学校全体（全学年を対象）で家庭学習を促す機会（学習日・週間の設定など）としくみを構築する。各種資格・検定等の取得を推奨し、家庭学習に取り組む必要性を生み出す。生徒の学力に応じた課題設定など、すべての生徒が家庭学習の必要性和有益性を見いだせる取り組みを実施する。	
	授業改善の推進	授業見学を相互に行い、授業改善が進んでいるか	2.6	B			
	家庭学習の習慣化	家庭学習の習慣化に向けた取組が定着へと結びついているか	2.2	C			
評価者の意見等	学力向上に向けて、家庭学習習慣定着へ向けては、数年来の課題であり、高校独自で達成できるものではない。幼少期のコミュニケーション等、特に小中学校の生活習慣が大きく影響するので、連携を強化することで、改善に向けて進んで欲しい。コロナ禍の影響もあり、これまで以上に生徒に寄り添う姿勢が大切である。					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
						B	B
【生徒指導】 生徒の規範意識を高め、自他の人格を尊重しあう心身の育成	SNS利用マナーを含む人権尊重意識の向上	情報リテラシー教育の充実を図り、人権尊重の考え方や規範意識が高まっているか。	2.9	B	○感染症拡大防止のためスマホ教室は実施することができなかった。スクールカウンセラー講話を2度実施し、北海道文化財団の表現力アドバイザー事業を実施できた。今年度、いじめ関連で大きな問題は起きなかった。 ○生徒との面談を各学年で定期的実施し、生徒情報共有した。生徒指導事故や不登校はゼロだった。 ○今年度は行事をあまり実施することはできなかったが、各中学校での生徒会による学校説明会や、70周年記念の座談会、中高連携学習会などに参加することで、生徒は自己有用感を育んだ。部活動は少人数で大変だが頑張っている。	○スマホ・ケータイ教室などは、オンラインを活用した実施も考えていく。また、講話などだけでなく、普段の授業などから、情報リテラシーや人権尊重意識を醸成できるようにしていく。 ○引き続き、定期的な面談などを実施することで生徒理解を深め、職員会議などで情報を全体で共有していく。 ○コロナに対応した行事のあり方を探るとともに、通常であっても生徒数と教員数が減少することを想定し、行事や活動を持続可能な形にしていく。部活動では地域の力も借りて存続させる。	
	傾聴を重視し、面談等による生徒理解の推進	面談や声かけにより生徒理解を深め個に応じた指導が進んでいるか	3.6	A			
	生徒の社会性や自己有用感を育む体験活動の充実	生徒会行事の運営や部局活動での協働作業を通じて社会性や自己有用感が育っているか。	3.1	B			
評価者の意見等	生徒の日常やストレスなどを適切に把握し、未然防止に向けた取り組みを実践して欲しい。現在の取り組みを継続しつつ、教育相談体制を充実させ、引き続き多様な生徒への対応をお願いしたい。表現力アドバイザー事業など、あらゆる角度からの指導を実践していることは評価できる。					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
						A	B

【進路指導】 進路実現を目指し、切磋琢磨して自ら切り拓く能力の育成	キャリア教育の充実改善	進路情報の共有に加え、面談の充実を図り、ミスマッチのない指導が推進できているか。	3.2	B	○進路決定の時期に臨時休校があったが、登校日に繰り返し面談を実施しミスマッチのない進路指導へ繋げることができた。また、面談指導の充実を目的とし外部講師による校内研修を実施した。 ○スタディサプリや吉田学園の公務員講習動画の活用など外部機関の活用による講習の整備を図ることができた。 ○キャリア教育の充実を図るため、近隣企業や上級学校との協力によって説明会や相談会の実施を進めることができた。	○今年度の進路指導での入試改革初年度の対応を活かすとともに制度変更を実施した学校の情報の収集と共有を行う。また、生徒の進路決定につながる情報発信を行う。 ○今年度実施の外部機関の活用を活かし講習の制度設計を行う。また、キャリア行事の充実のため、オンラインの活用も含め関係機関や町内企業と連携し、行事運営の改善を図る。	
	進路支援体制の充実	講習の充実・改善と生徒の内的動機付けを図り、組織的な生徒支援が実践できているか。	2.9	B			
	職業観・勤労観の醸成に向けた進路体験活動の充実	地域連携、就業体験、等の実施が資格取得や職業観の育成に繋がっているか	3.2	B			
評価者の意見等	生徒の求めている物を広くキャッチし、適切に提供していくことが大切である。職場体験学習等のキャリア教育に力を入れ、地元企業の説明会や進学層段階などの多くの機会をもつことで、生徒の意識向上、地域活性化に役立っている。オンライン等、多様化が進んでいるので、遅れることなく対応して欲しい。					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
						B	B
【健康安全指導】 心身の健康増進と環境美化の意識の高揚	生徒の健康管理・増進に向けた啓蒙指導の充実	生徒自らが健康管理に努めるよう保健室と連携を深め、計画的に情報提供ができているか。	3.2	B	○感染症対策について継続的に指導を行い、感染流行を防ぐことだけでなく、予防行動の定着や健康管理意識の向上に働きかけることができた。基本的な生活習慣の確立やストレス対処等の健康課題を抱えている生徒が多いため、指導の充実が必要である。クラスターを発生させることなく、年度を終えることができた。 ○全校生徒を対象として健康相談を実施し、個に応じた教育相談体制の充実をはかることができた。積極的に教育相談を行い、指導・支援につなげることができた。 ○定期的な安全点検を行い、危険箇所の点検・修繕に努めることができた。	○健康課題に焦点を当て、関係教員・関連機関等と連携した計画的な保健指導の徹底、掲示・配布物等を活用した積極的な情報発信を行う。 ○関係機関等を含めた教育相談体制の構築を図り、迅速かつ丁寧な組織的対応につなげる。 ○計画的に点検を行い、修繕が必要な箇所に関しては迅速に対応し、生徒の安全管理に努める。	
	教育相談体制の充実	個に応じた教育相談が適切に行われ、組織的な生徒支援が図られているか	3.4	B			
	生徒の安全確保を最優先した危機管理体制の構築	危機管理を見据え、生徒の安全確保に向けた情報把握・発信が適切に行われているか。	3.4	B			
評価者の意見等	校内での感染症対策が万全でも、学校外からの持ち込みも考えられるので、引き続き感染症対策の徹底をお願いしたい。また、教育相談体制の充実が、生徒の安定した学校生活に大きく影響するので、引き続き、丁寧な指導を行ってもらいたい。養護教諭の役割は非常に重要であり、先生方との連携を図り、変化を見逃さないようしっかりと生徒に寄り添い、観察・助言をお願いしたい。					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
						A	B

【学校運営】

項 目	今年度の目標	目標達成のための方策と評価の観点	達成状況	評価	自己評価の結果	改善の方策
【地域に信頼される学校づくり】 地域から支持される学校づくりの推進	情報発信の推進	生徒・保護者・地域に向け積極的情報発信により教育活動の周知が進んでいるか	3.5	A	○管理職による中学校生徒、保護者へのプレゼンテーションを行い、積極的な情報発信を行った。 ○ホームページのタイムリーな更新につとめ、情報発信を行った。また、町の広報担当者や、地域報道関係者と連携を密に図り、学校の細かな活動についても、報道してもらい、教育活動の周知に務めた。 ○教育長、中高校長による三者懇談を定期的に行い、連携事業のスピーディーな実践に努め、効果を	○全教職員が学校経営シラバスの重点とスクールミッションを意識し、目標を明確に、共有し実践することが重要である。 ○本校の様子を広く、知ってもらうために、引き続き広く積極的な情報公開を行う。 ○三者懇談会の内容を受けた中高連携事業の実践について、計画的に実践できるよう体制を整える。 ○総合探究学習への位置づけ
	近隣中との相互交流	中高連携による授業公開を行い、生徒の実態を把握し、授業改善を推進しているか	2.8	B		
	地域の教育資源の活用	自然資源や地域の企業・人材を活用し、地域連携による地域貢献活動が図られているか。	3.5	B		

	職員の情報交換・協働体制	報・連・相を徹底し、共通認識の下、協働体制で教育活動を展開しているか	3.4	B	あげた。 ○自然観察学習や、農業後継者育成事業、地元企業による校内説明会等を実施し、地域と密着した教育活動を実践し、効果をあげている。	等、地域と連携した教育活動の組織体制を整える。	
評価者の意見等	広報活動やPR活動等、積極的に取り組んでいただいております。さらに、広めていけるようお願いしたい。一般町民、地域住民が高校と関わる機会が少ないので、これまで同様、地域との連携強化について、多くのイベントへの参加や、ボランティア活動への取り組みなど積極的に取り組んで欲しい。					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
						B	B
【組織運営】 働き方改革を進め、学校課題の共有と迅速・的確な連携による協働体制の確立	前年度踏襲に拘らず、実効性のある計画の策定と実践	業務削減を進め、実効性の高い教育活動の推進に向け、PDCA サイクルを活用し、協働体制の中で課題解決が計画的に進んでいるか。	2.8	B	○新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた、新しい生活様式を進めるにあたり、これまでの教育活動における前年度踏襲を改め、働き方改革を踏まえた、行事の見直し、実践方法の再検討を行った。地区別懇談会を個別面談週間に、1日体験を生徒会執行部の訪問形式にする等、実効性と教育効果の向上を意識した改革に取り組んだ。保護者や関係からお評価をいただいた。	○一問口としての新たな組織体制を構築するとともに、年間計画の見直しと、業務の精選による実効性を高めた、教育活動推進に努める。 ○地域連携事業の見直しを図り、人数減により、出来ることと出来ないことを整理し、一つ一つの関わりを大切にしたものにする。	
	業務効率の改善を図り、迅速・的確な協働体制による学校運営の推進	時間外勤務縮減に向け、無理、ムラ、無駄を省き、共有データの活用、即時の反省・評価による業務改善が効率的に図られているか。	2.7	B			
評価者の意見等	一問口体制等の情勢に応じて、これまでの「やり方」を変えていくことは評価します。教員の負担軽減を図りながら、取り組んでいただきたい。学校説明会等を生徒の訪問形式にしたのは、素晴らしい実践だと思います。削減するところと、新たな実践とのバランス良くすすめて欲しい。					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
						B	B
【教職員の資質向上】 校内及び校外での研修体制の促進	CMを活用した授業力の向上	ICT 教材の活用や授業評価における改善を教科指導力の向上につなげているか	3.1	B	○管理職による授業参観を積極的に行い、教員の授業改善に向けた意識の向上を図った。ICTを効果的に活用することで、生徒の興味関心を高め、深い学びに向けた授業実践に取り組んでいる。 ○各種通知や、事故情報等を定期的に職員に提供し、注意喚起を促すとともに、事故の問題として捉え、危機管理意識の向上に努めた。 ○他校への視察、外部講師の招聘等による教員研修の場を多く持ち、資質能力の向上に努めた。	○教員個々の実践を、研修会等と連動させ、学校全体として授業力向上につながる体制を構築する。年間の通じた研修テーマを設定し、実践、評価、改善のサイクルを構築する。 ○日常の呼びかけとともに、職員会議や、研修の場をとおして、危機管理意識を向上させる。事例研究等を積極的に取り入れ実践力向上に努めたい。 ○研修結果報告や、自らの実践報告など、互いに高め合う雰囲気作りのもと、研修活動の充実を図る。 ○「指導力向上」を意識させ、日々の実践を評価しあえる雰囲気作りと、ミドルリーダーが育つ環境づくりを行う。	
	教育公務員としての服務規律遵守の徹底	常に自身の言動に自覚と責任を持ち、信頼関係構築において適切な対応が取れているか。	3.4	B			
	高大接続と新学習指導要領を見据えた研修	通知等の趣旨を踏まえ、自身の資質能力の向上に対し、効果的な研修が進んでいるか。	2.8	B			
	教員間における同僚性を高める助言体制構築	初任者等に対し、先輩教諭が適宜助言を行う等、相互支援体制の強化が図られているか。	3.2	B			
評価者の意見等	若い先生方が多い中、積極的に研修・実践を積み重ね、指導力を向上させてもらいたい。ICT技術を活用した授業等のスキルは向上について、小中高連携した研修会を実践したことは、素晴らしい取り組みである。引き続き、小中学校との連携を深め、研修等を積極的に行い、資質向上に努めていただきたい。					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
						B	B

自己評価の指標

【達成状況の指標（各教職員による評価）】

- 4 具体的な取り組みが行われており、目標等の達成が期待できる。
- 3 具体的な取り組みが行われている。または、具体的取り組みに向けて積極的に検討中である。
- 2 組織（分掌・学年等）として一般的な議論はしたが、具体的取り組みに向けての検討に至っていない。
- 1 課題の重要度は理解しているが、全くあるいはほとんど検討していない。

【評価の指標】

- A 十分な取組が行われた。
- B おおむね十分な取組が行われた。
- C やや取組が不十分で改善が必要である。
- D 取組が不十分で抜本的な改善が必要である。

学校関係者評価の指標

【自己評価の適切さに対する指標】

- A 適切な評価である。
- B ほぼ適切な評価である。
- C やや不適切な評価である。
- D 不適切な評価である

【改善に向けた取組の適切さに関する指標】

- A 十分な効果が期待できる。
- B ほぼ十分な効果が期待できる。
- C あまり効果が期待できない。
- D まったく効果は期待できず、改善を要する。